



その名も「明大アウシュビッツ」

本誌(二六頁)の通り、大出当局(学生会費)自治(別項)凍結」は、学生の自治活動に重大な打撃をきたしている。昨年からロック・アウトされ、学園内に「凍結」をもたせ、

「ロックアウト」は、学園内に「凍結」をもたせ、

「ロックアウト」は、学園内に「凍結」をもたせ、

「ロックアウト」は、学園内に「凍結」をもたせ、

学生会費の行方

六月初旬、大出当局は「学生の自治についての提言(別項参照)」を学生に配布した。

「提言」の全体を眺めて、気がつくのは、金共闘が「九平」である。昨年の九月段階で対本部は話し相手として、金共闘を認めないことを決定している。ロック・アウト以来、大出当局は種々の学生組織の要求があ

「学生自治への挑戦」

苦慮する各有団連

非難の声、学生間に高まる

たにも抱えず、ほとんど公開の討論の場すらも設定していない。校舎周辺で学生が集会を開く、直ちに「学長等」の違反を告げる職員の声が多々から流され、解散が命ぜられるのが本学の現状である。

今回の「学生会費凍結」問題も昨年から進められて、学生自治、抑圧政策の一環とも認められないうち、大学当局の「力の論理」のあらわれとみられる。ロック・アウト以来、金共闘

学生に準仕するものではなく、学生の利害の立場に立つのであり、形式的な民主主義等を行うものではない。学生大結成の精神を追求して「凍結」を克服せよ、と「民主主義」を一体何なのかに「民主主義」を問い、民主主義に対する組織の相違がある。③定例学生会費、本年は六月末か七月初旬に、学生大会を開催し

④会計監査、四年間監査をやらなかったのは事実である。しかし監査は余学生に対して責任を持つものであり、大学に責任を持つ必要はない。本年の学生大会で、会計監査もあつてほしい。すでに準備ができており、その他の中教批判について中教の崩壊が言われているが、監査的に言えない。昨年のストは学

生大会で正式決定したものであり、学生の自治活動が低下したのは、大出当局の権力、一体となったロック・アウト運動によるものである。自動凍結したもので決まていない。学生の自治活動の再建のために、大学に協力を求めたい。ロック・アウト、解凍、学館を開放し、民主主義の推進に協力して欲しい。その推進のために、凍結してしまっている学生費を凍結解除して欲しい。現在、学生自治活動は個人カンパで賄われている状態である。これがいつまで続けられるかわからない。

また、学生会費の四〇%を活動費に充てているが、この活動費は、大出当局が「九平」である。昨年の九月段階で対本部は話し相手として、金共闘を認めないことを決定している。ロック・アウト以来、大出当局は種々の学生組織の要求があ

「民主主義」などの政治問題も、学生と大出当局との間に理解の相違が存在するのは明白な事実である。学生を凍結したまま、目標を表明し続けるのは、大出当局を凍結した「公開」(前野記者)